

進路だより

きぼうの道

秋田県立能代支援学校

進路指導部 NO.2

令和2年7月22日発行

中学部前期校内実習の様子

木工班



ハーブ加工班



農園芸班



7月6日(月)～10日(金)までの5日間、中学部前期校内実習を実施しました。内容は、農園芸、ハーブ加工、木工の3班による終日の作業を中心とした学習活動です。働く場面に求められる基本的な習慣(態度、自主性、時間など)の定着を目指して一人一人が目標を設定し、やりがいや達成感を感じながら頑張りました。

高等部前期校内実習の様子

6月8日(月)～19日(金)までの10日間、高等部前期校内実習を実施しました。1年生は「知る」、2年生は「選ぶ」、3年生は「決める」のテーマの下、自分たちの希望する進路を実現するために、働く力を高めました。例年2・3年生はこの時期、実際の職場に出向いて実習を行っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響から、今年は全学年が校内で農園作業や受託作業に取り組みました。

農園作業の様子



農園作業では、リンゴや梨の摘果作業とポットの洗浄、「森の中の学校プロジェクト」で植樹をした樹木の周りの除草作業をしました。10日間の実習の中で雨天や炎天下での作業を経験し、外作業の大変さや終わった後の達成感、仕事へのやりがいを感じることができました。

受託作業の様子



ニプロ株式会社大館工場、株式会社白神屋、モードマサミ、就労支援センターこまちの3社1福祉事業所のご協力のもとに、受託作業を行いました。3年生は作業を始めるに当たり、「商品の向こうには買ってくださいのお客様がいる。そのことを常に考え、商品に愛情を注いで働いて下さい」とお言葉をいただき、その言葉から一人一人が、仕事に対する責任を改めて考えることができました。

高等部主事より

『将来なりたい自分の姿』が導く幸せな生活

本校小・中学部の児童生徒にとって高等部の生徒は憧れの対象です。一緒に遊んでいた先輩が高等部に入学した途端、急に大人びて見えるのは制服の雰囲気や身長伸びだけではなく、後輩たちに“素敵だ”と感じせる表情や仕草を演出しているのは内面の成長にほかなりません。“素敵な大人への道”にはやはり心の成長が欠かせないのだと生徒の姿に学ばされます。しかし、素敵な大人を自らイメージし、『将来なりたい自分の姿』を目指して生活している生徒は少ないように感じます。

令和2年6月、全国的な感染症予防対策の中、高等部では前期実習が校地内にて行われました。生徒によっては慣れない環境で行う例年の職場実習に比べ、コミュニケーション面でのプレッシャーを感じることは少なかったものの、慣れた環境だからこそ、隣りで働く友達の姿を目にしながらの実習だからこそ、改めて自分にとっての課題を丁寧に考える機会となった生徒が多かったようです。

今回、一人一人が取り組んだ課題の認知は、“素敵な大人への道”の始まりであり、『将来なりたい自分の姿』のイメージに近づくための第一歩です。解決には他者からの協力が必須であり、学校や家庭で日々意識し、実践しながら過ごし、少しずつ習慣化していくことでしか解決できない課題も多いかと思います。卒業後の社会経験がきっかけとなる場合もあるかもしれませんが、時間をかけてでも『将来なりたい自分の姿』のイメージを思い描き、実現に向かうことは、生徒たちにとって必要です。その先には必ず『幸せに生活する自分の姿』があると思っています。



高等部主事 伊藤健人